

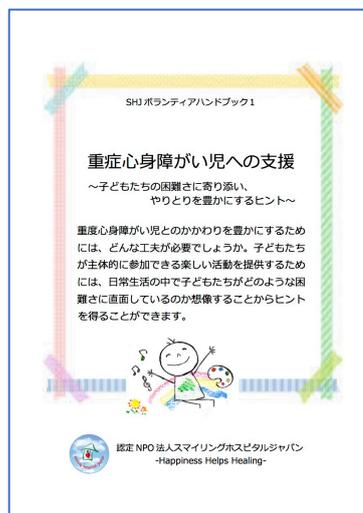


「ボランティアハンドブック」

重症心身障がい児への支援

子どもたちの困難さに寄り添い、
やりとりを豊かにするヒント

多くの病院、施設で活用されています。
寄せられた感想を紹介します。



ボランティアハンドブック届きました。とっても分かりやすく、親としても「(ボランティアさんだけでなく先生・事業所スタッフさんにも)子どもたちにご接して欲しい」と言うガイドラインのような内容でした。早速、明日のスイッチの勉強会で集まる専門職のみなさんにも見てもらおうと思います。(母親・重心施設職員より)

これだけ丁寧に子どもに関わってもらえるとしたら、重心の子どもを持つ母として、とても嬉しく思います。
子どもたちの可能性がどんどん広がっていくように感じました。
ありがとございました。
私も子どもからの微力な発信に応えていけるようアンテナを張っていきたくと再度強く思った次第です。(母親・児童発達支援放課後等デイサービス事業所職員より)

早速、拝読しましたが重度という記載を外してしまってもよい気がしました。
と言うのも、弊所に通う発達障害のお子さん対応にもそのまま通ずる内容で活用して伝えたいと思いました。ありがとございます。(発達障害事業所より)

内容を拝見致しましたら、一語一句大切なことがちりばめられていて、豊富なご経験とあふれる優しさを感じ、胸が熱くなりました。
貴重な情報を、このような形で分け頂きました事に心より感謝致します。
まだ、やっと病院でのご要望をいただき活動を始めたばかりですが、活動を同じくするボランティアスタッフと一緒に良く読ませていただきます。(福祉関係 NPO より)

